

カウンタ計測プログラム CPR96K は、ワイヤレス DACS-9600K-CNT 対応のカウンタ計測制御プログラムです。このプログラムにてカウンタ操作およびカウント値のリアルタイム表示/記録ができます。

カウンタ動作は、該当する部分のマウスクリックで簡単に操作できます。また、タッチパネルでの操作には、操作部分を拡大してタッチ操作を容易にすることもできます。

#### 対応カウンタ製品

DACS-96KSET-CNT
DACS-96KSBX-CNT
DACS-96KSDX-CNTFH
DACS-96KSES-CNTFH
DACS-96KSDX-CNTFL
DACS-96KSES-CNTFL

カウンタ計測プログラムを動作させる前に、弊社USBインターフェイス製品のデバイスドライバをインストールしてください。インストール方法の詳細は、「ドライバインストール手順説明書」を参照してください。

(1) カウンタ入力信号を接続してください。

入力極性変更操作の説明部分に、デジタル入力との対応表を記述しています。  
接続と機能の詳細はカウンタ説明書をご覧ください。

(2) 弊社HPダウンロードページのカウンタ製品フォルダ dacs9600K\_CNT にある、実行ファイル CPR96K.exe を適当なディレクトリにコピーし、ダブルクリックして起動してください。

## カウンタ操作と表示画面

① 選択したカウンタの大型文字表示

② カウンタホールド値ゲート信号 ON→OFF でホールド

③ フィルタ設定

④ カウントモード

⑤ カウント計測/停止

⑥ 入力極性  
C: カウント  
U: UP/DOWN  
R: リセット  
T: ゲート  
+ 正極性  
- 負極性  
X 無効

⑦ 操作部分の拡大表示へ切替

⑧ ホールドモード

⑨ ファイル記録中の表示

カウンタ	値	モード	極性
カウンタ 0	1 234 484 694	UP/DOWN 計測	++ XX
カウンタ 1	- 609 889 877	UP/DOWN 計測	+ - XX
カウンタ 2	5 466	ENCODER 計測	++ X +
ホールド 0	263 329 103	標準	
ホールド 1	-8 011 346	標準	
ホールド 2	8 000	周期	

メニュー

操作カウンタ番号選択 0~3 ↑ ↓ L: キーロック  
 カウンタ操作 G: 開始 S: 停止 Z: リセット X: リセット入力無効  
 カウントモード選択 E: エンコーダ N: UP/DOWN  
 ゲート機能選択 A: 有効 B: 無効  
 ホールドモード選択 P: 周期 W: パルス幅 N: 通常トリガ  
 入力極性変更 C: カウント U: UP/DOWN R: リセット T: ゲート  
 記録なし

メニューから「表示切替」にて、下段がカウント最終値の表示と操作に変わります。

(1) 上段 (2) 中段 (3) 下段に分けて表示しています。(1) 上段は、選択したカウンタの大型文字表示です。(2) 中段は3個のカウンタ値の表示と、各カウンタのホールド値および各カウンタのカウントモードなどを表示しています。(3) 下段は操作の簡易ガイドです。

中段表示部分のマウス操作でも、カウンタ設定を変更することができます。

## プログラム起動時の状態

本プログラムを終了したときに、終了時のカウンタ設定状態を、設定保存ファイル（CPRK.par）に自動保存します。プログラム起動時には、このファイルから設定状態を読み取って終了時と同じ状態に設定します。設定保存ファイル（CPRK.par）が存在しない場合は、子機のカウンタ基板（ユニット）電源投入時の初期状態と同じになります。

（ご参考）親機（パソコン側）の動作が停止していても、子機の電源をOFFとしない限り、子機のカウンタ基板（ユニット）はカウンタ動作を継続しています。従って、本プログラムを再度起動すれば、以前の状態を継続することができます。パソコンの電源を再投入した場合でも同じです。

## 設定状態の手動保存

プログラム終了時の自動保存とは別に、手動で設定状態を保存することができます。メニューから「設定保存」を選択すると、自動保存とは別名の設定保存ファイル（CPRK1.par）に設定状態を保存します。

CPRK.par、CPRK1.par は本プログラム実行ファイルと同じフォルダに生成します。プログラム起動時に手動保存した状態とする場合は、CPRK1.par を CPRK.par にコピーしてください。

CPRK.par を削除。CPRK1.par をコピーして CPRK.par に名前を変更。

## 操作カウンタ番号の選択

数字キー0～5で、操作対象となるカウンタ番号を選択します。

「ホールド」は3～5番の選択となります。

上下矢印キーでも操作対象となるカウンタ番号の変更ができます。

マウス左クリックでも選択できます。

選択したカウンタ番号は黒背景表示となります。図の例ではカウンタ0を選択しています。

以後の操作説明では

キー操作 → 選択したカウンタのみが操作対象となります。

マウス操作 → カウンタ番号選択とは無関係に任意のカウンタを操作できます。

タッチパネル操作

→ タッチパネルでの操作は、「マウス左クリック」を「タップ」と以下、読替えてください。

## 操作部分の拡大表示

画面の ⑦ 拡大矢印部分をマウス左クリックすると、操作部分が拡大画面に切替り、タッチパネルでのタップ操作が容易になります。

操作部分の拡大画面で、縮小矢印部分をマウス左クリックすると、元の画面に戻ります。

ホールド 0    263 329 103    標準  
ホールド 1    -8 011 346    標準  
ホールド 2    8 000    周期

十字の中心をクリックすると拡大画面になります

メニュー

1 234 628 798

	F			C	U	R	T
<b>カウンタ 0</b>	-	UP/DOWN	計測	+	+	X	X
カウンタ 1	-	UP/DOWN	計測	+	-	X	X
カウンタ 2	-	ENCODER	計測	+	+	X	+
ホールド 0		標準					
ホールド 1		標準					
ホールド 2		周期					

十字の中心をクリックすると、元の画面に戻ります

記録なし

## カウンタ操作

次のキーを押して各カウンタを個別に操作します。

G	カウントを開始します。カウンタの計測/停止表示が「計測」となります。 「計測 停止」表示部分のマウス左クリックでも変更できます。
S	カウントを停止します。カウンタの計測/停止表示が「停止」となります。

Z	カウンタをリセットします。カウンタ値が0となります。 各カウンタ値の表示部分をマウスダブルクリックでもリセットできます。 大型文字表示をマウスダブルクリックで表示カウンタのリセットができます
---	---

X	リセット入力を無効とします。もう一度押すと有効に戻ります。 入力極性Rの各カウンタ入力極性表示をマウス左クリックでも操作できます。入力極性表示が $+ - X X + -$ と変化します。入力極性表示がXのときは、リセット入力が無効状態です。
---	--

## カウントモード選択

次のキーを押して各カウンタのカウントモードを個別に選択します。

E	エンコーダカウントモードとします。 エンコーダカウントモードでは、カウント値表示は4通倍となります。 カウンタのモード表示が「ENCODER」となります。 「UP/DOWN ENCODER」表示部分のマウス左クリックでも変更できます
N	通常のUP/DOWNカウントモードとします。 カウンタのモード表示が「UP/DOWN」となります。

## ゲート機能選択

次のキーを押して各カウンタのゲート機能を個別に選択します。

(注) ホールドモード選択で、周期またはパルス幅を選択すると、このゲート機能選択は無効となります。

A	ゲート機能を有効にします。ゲート信号ONのときのみカウントを実行します。 入力極性表示のT部分が入力極性の設定に応じて、+ または - になります。 入力極性Tの各カウンタ入力極性表示をマウス左クリックでも、 入力極性表示が $+ - X X + -$ と変化します。入力極性表示がXのときは、ゲート機能が無効状態です。
B	ゲート機能を無効にします。ゲート信号はカウンタ動作と無関係になります。 入力極性表示のT部分が X になります。

## ホールドモード選択

次のキーを押して各カウンタのホールドモードを選択します。

P	<p>カウンタのゲート入力信号の周期計測を可能とします。 ホールドのモード表示が「周期」となります。</p>
W	<p>カウンタのゲート入力信号のパルス幅計測を可能とします。 ホールドのモード表示が「パルス幅」となります。</p>
N	<p>ホールド機能を標準（通常動作）とします。 ゲート信号のONからOFFの変化で、カウンタのカウント値をホールド（保持）します。</p>

ホールドのモード表示部分「標準 周期 パルス幅」のマウス左クリックでも操作できます。  
標準（通常動作）→ 周期→ パルス幅 → 標準 と変化します。

## 入力極性変更

次のキーを押して各カウンタの入力極性を変更します。

キーを押すごとに極性が変化します。

各カウンタの極性表示部分のマウス左クリックでも操作できます。

C	カウント入力信号（エンコーダの場合はA相）の極性を変更します。
U	UP/DOWN信号入力（エンコーダの場合はB相）の極性を変更します。
R	リセット入力信号の極性を変更します。 マウスでの操作はカウンタ操作のリセット入力無効欄をご覧ください。
T	ゲート入力信号の極性を変更します。 マウスでの操作はゲート機能選択の項をご覧ください。

各カウンタの入力極性状態は、カウンタ値表示の極性欄に表示しています。

+	正極性（TTL入力 highにて1、絶縁入力 openにて1）
-	負極性（TTL入力 lowにて1、絶縁入力 closeにて1）
X	無効（カウント動作に影響なし。RリセットとTゲートのみ）

デジタル入力と各カウンタ信号の対応 詳しくはカウンタの説明書をご覧ください。

カウンタ番号	カウント入力	UP/DOWN入力	リセット入力	ゲート入力
0	bit0	bit1	bit2	bit3
1	bit4	bit5	bit6	bit7
2	bit8	bit9	bit10	bit11

## フィルタ設定

Fキーを押すごとにフィルタ設定が変化します。

各カウンタのフィルタ設定表示をマウス左クリックしても変更できます。

各カウンタのフィルタ設定状態は   、H、M、L の文字で表示しています。

表示文字	フィルタ時間
<u>  </u>	フィルタ無効
H	0.15ms    3.3KHz
M	1.5ms      330Hz
L	15ms        33Hz

各カウンタに設定したフィルタは、カウント入力信号（またはA相入力）とカウント方向入力信号（またはB相）に共通に働きます。フィルタ機能有効とすると、設定した時間よりも短い入力変化があっても、カウンタ内部では入力変化があったとはみなしません。設定時間以上の長い入力変化があると入力変化があったと判断します。

リセット入力とゲート入力にはフィルタ設定はできません。

## カウント最終値の設定

メニューから「表示切替」を選択すると、操作メニュー表示部分が、カウント最終値設定表示に切替ります。もう一度、「表示切替」を選択すると操作メニュー表示に戻ります。

	最終値(16進)	(10進)	終点動作
カウンタ 0	fffffff	無効	くり返し
カウンタ 1	fffffff	無効	くり返し
カウンタ 2	fffffff	無効	くり返し

カウント最終値設定の各カウンタ最終値表示（図中、カウンタ0～2の右にあるfffffff）をマウス左クリックすると、画面下側に、指定したカウンタ番号の最終値を入力する表示が出ます。最終値は0以上の10進数で指定し、最後にENTERキーを押します。負数は指定できません。また、最終値入力文字Xを入力してENTERキーを押すと、無効（fffffff）状態に戻すことができます。

	最終値(16進)	(10進)	終点動作
カウンタ 0	fffffff	無効	くり返し
カウンタ 1	fffffff	無効	くり返し
カウンタ 2	fffffff	無効	くり返し

カウンタ1 最終値 =

初期状態では、カウント最終値での動作は、「くり返し」になっています。

「くり返し」では、+方向のカウントの場合、最終値になると次のカウントでカウント値0に戻って、そのままアップカウントを続行します。-方向のカウントの場合、カウント値が0になると、次のカウントで設定した最終値に戻って、再びダウンカウントを続行します。デジタル出力は分周出力となります。デジタル出力の詳細は各カウンタの説明書をご覧ください。

	最終値(16進)	(10進)	終点動作
カウンタ 0	000f4240	1000000	くり返し
カウンタ 1	00bc614e	12345678	停止
カウンタ 2	ffffffff	無効	くり返し

終点動作表示の各カウンタ動作（図中、くり返し）をマウス左クリックすると、「停止」に変わります。カウント最終値「停止」では、+方向のカウントの場合、最終値になるとカウント動作を停止します。-方向のカウントの場合、カウント値が0になるとカウント動作を停止します。該当する分周デジタル出力は反転します。カウント開始前のカウンタリセットにて、分周出力はOFFとなりますので、カウントを開始して、カウンタが最終値になると、この出力がONにて、最終値となったことを検知することができます。

設定したカウント最終値と終点動作は、プログラム終了時に自動保存となり、次の起動時に終了した状態にて開始します。

## キーロック

L	キーおよびマウス操作を無効とします。 ただしカウンタ番号選択とEscキーは操作可能。
Esc	キーロックを解除します。

## カウント値のファイル記録

(重要) 記録機能を利用するためには、カウンタ0 のゲート入力に、記録間隔を決める信号を接続する必要があります。接続する信号は、カウンタユニット（基板）から出力している 0.5Hz（2 秒周期）のクロック信号を推奨します。

左括弧キー “ ( ” を押すとカウント値のファイル記録を開始します。

右括弧キー “ ) ” を押すとファイル記録を停止します。

または、「記録なし」の部分をクリックで記録を開始します。

「記録中」の部分をクリックで記録を停止します。

	最終値(16進)	(10進)	終点動作
カウンタ 0	fffffff	無効	くり返し
カウンタ 1	fffffff	無効	くり返し
カウンタ 2	fffffff	無効	くり返し

**記録中 48**

記録中を表示（数字は記録回数）  
反転文字から通常文字に変化する  
時点で、1行分のデータを記録  
例：**記録中 1** → 記録中 2

記録するファイル名

CPR96K.csv

実行ファイルと同じディレクトリーに作成します。

ファイル形式

CSVテキスト形式

データ形式

同時刻の各カウンタ値を、  
カウンタ0~2、ホールド0~2、時刻 の順で、  
カンマで区切られた11桁の10進数にて、1行に表示。  
時刻ごとに行を変えて記録。

```
1041133420, 1023009, 8, 1041124863, 1023001, 2000, 18:17:06
1043148783, 1025025, 23, 1043124863, 1025001, 2000, 18:17:08
1045132080, 1027008, 7, 1045124863, 1027001, 2000, 18:17:10
```

↑  
カウンタ0

↑ ↑ ↑  
6個分のデータと時刻が1行

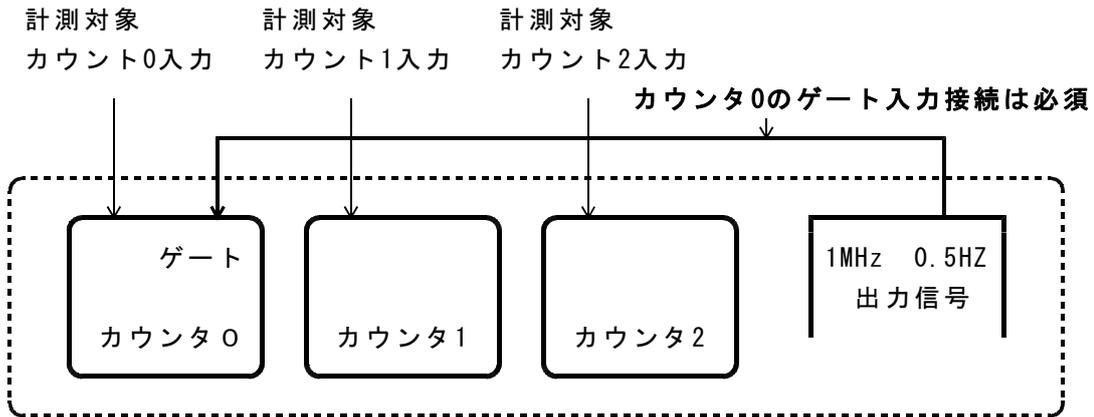
↑  
ホールド2

↑  
時刻

## 記録データの更新時刻について

ファイルに1行分のデータ、すなわち同時刻の3個のカウンタ値と3個のホールド値を出力するタイミングは、カウンタ0のゲート入力 が ONからOFF (TTL入力の場合はHighからLow。絶縁入力の場合はCloseからOpen) となるときです。入力極性を反転している場合は、この逆となります。この機能は、ゲート機能の有効/無効の設定とは関係なく動作します。

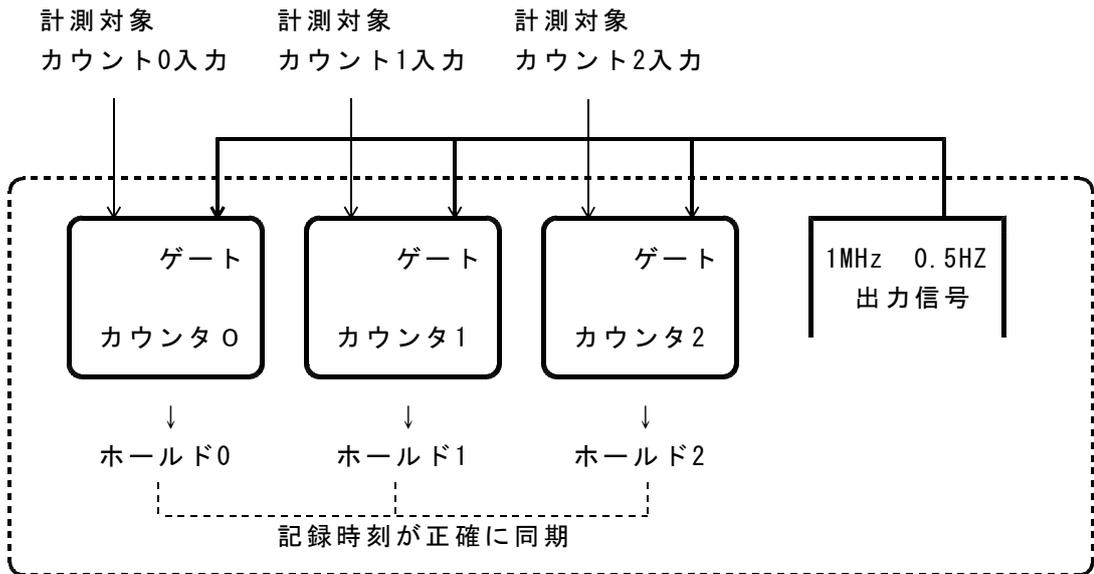
### 最も簡単な記録方法 (2秒間隔で記録する場合)



(ご注意) 取得したカウンタ値は、各カウンタで 50ms 程度の取得時刻誤差があります。

### 正確に時刻が同期したカウンタ値を記録する方法

カウンタ0~2 のゲート入力に同じ信号を接続します。この接続で、カウンタ0~2のカウンタ値は、ゲート入力 がONからOFFに変化するときに、各ホールドレジスタに保持されますので、ホールド0~2の値は 1 $\mu$ s程度の誤差で正確に同期した値となります。

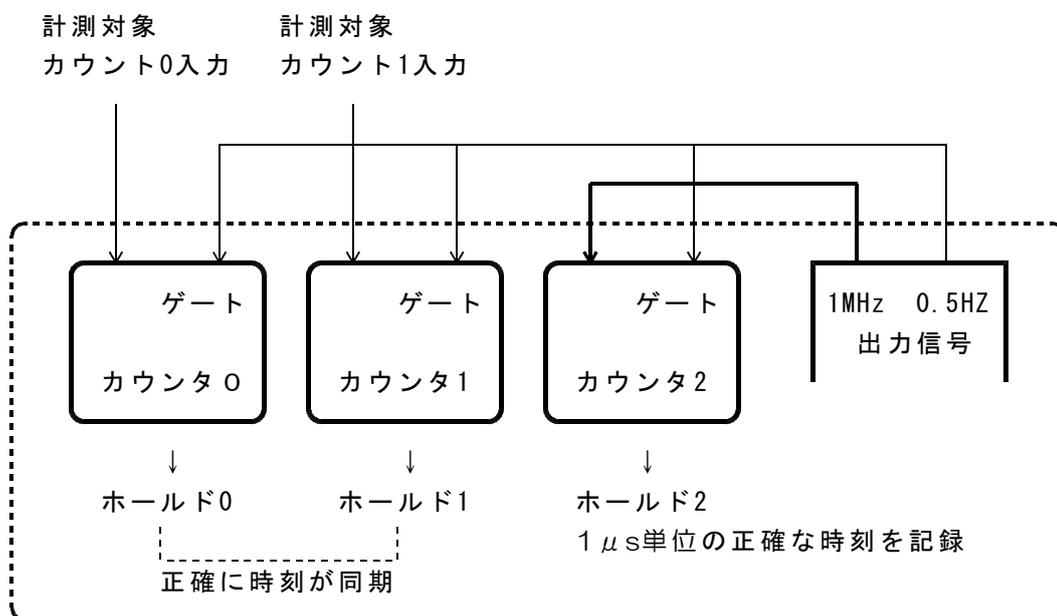


(ご参考) ホールドレジスタは、ゲート機能の有効/無効設定とは関係なく、ゲート入力がONからOFFに変化したときの、対応するカウンタの値を保持します。

カウンタ値を連続して計測する場合は、ゲート機能を無効に設定しておきます。

### 1 $\mu$ s 単位の記録時刻を取得する方法

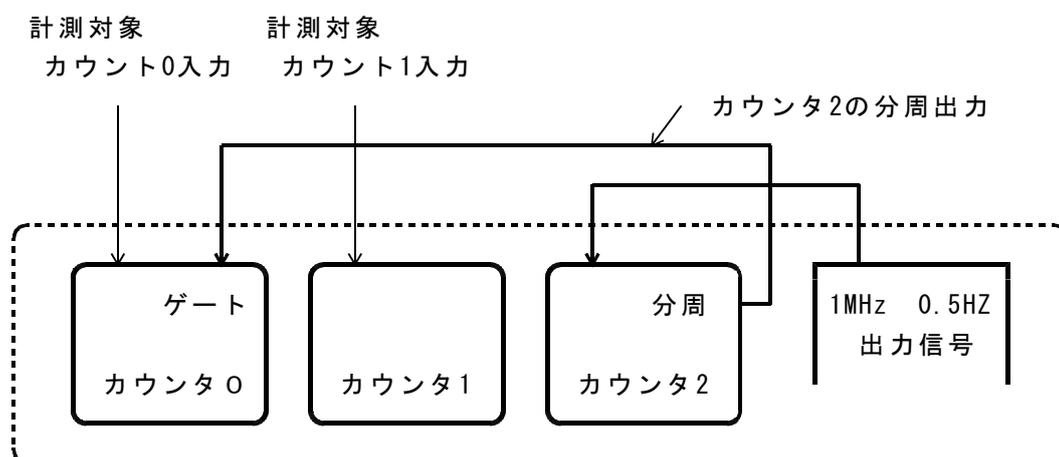
カウンタ0~2 のいずれかのカウンタ（下図ではカウンタ2）のカウンタ入力に、カウンタユニット（基板）から出力している 1MHzの信号を接続すると、カウンタ2のホールド値から、1  $\mu$ s 単位の正確な記録時刻（記録間隔）を取得することができます。



## 任意の時間間隔で記録する方法

カウンタ2のカウント入力に、カウンタユニット（基板）から出力している 1MHzの信号を接続し、カウンタ2の分周出力を、カウンタ0のゲート入力に接続します。

また、カウンタ0とカウンタ1の正確に時刻が同期したカウント値を記録するには、カウンタ1のゲートにも同じ信号を接続し、ホールド0とホールド1を利用します。



### カウンタ2の分周出力について

- カウンタ2のカウント最終値を設定します。  
分周出力の周期 = (最終値 + 1) × 2 μs  
記録動作が可能な設定周期は 100ms 以上です。  
これよりも短い周期は設定できません。
- カウンタ2の終点動作を「くり返し」にします。
- カウンタ2の分周出力 デジタル出力 bit 20  
詳細はカウンタ説明書をご覧ください。

## カウント値を任意の単位で換算表示

1 パルスあたりの距離など換算値を、カウンタごとに指定し、大型文字部分を指定単位で表示することができます。

(注) 中段に表示している各カウンタのカウント値およびホールド値は、換算表示の対象となりません。

カウンタ	値	F	CURT
カウンタ 0	127 546 339	UP/DOWN 計測	++ X X
カウンタ 1	-179 927 763	UP/DOWN 計測	+ - X X
カウンタ 2	1 487	ENCODER 計測	++ X +
ホールド 0	126 174 607	標準	
ホールド 1	-8 011 346	標準	
ホールド 2	8 000	周期	

フォルダ dacs9600K\_CNT にあるファイル CRPK\_sample.uni を CPR96K.exe と同じディレクトリにコピーし、CRPK.uni に名前を変更して、テキストエディタで編集します。CRPK.uniファイルがない場合は、単位換算表示は無効となります。

CPRK\_sample.uni の内容

各行に 3 個のデータがカンマで区切られています。

1.012345, 2, 距離 X μm	カウンタ 0 の設定データ
2.200000, 1, Y mm	カウンタ 1
10.00000, 3, Z mm	カウンタ 2
1.0, 4, 周期 sec	ホールド 0 の設定データ
10.0, 5, 周期 msec	ホールド 1
100.0, 6, 周期 μ sec	ホールド 2

↑ 画面②の部分に表示する単位  
 ↑ 色指定 0:黒 1:青 2:緑 3:水色  
 4:赤 5:紫 6:黄

↑ 換算単位 カウント数に乘算した値を画面に表示

(注) 乘算結果の小数点以下は表示対象となりません。

(完)

ダックス技研株式会社

DACSCPR96K21401A